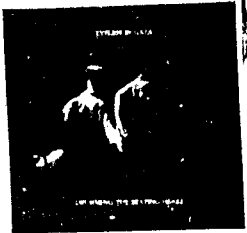


EYELESS IN GAZA

Drumming The Beating Heart

(F) Cherry Red B. RED-36

Mattyn Bates, Peter Becker



Fossil Music (Japan)
Nov 1982

ロンドン郊外のウインブルドンを中心として活動続けるイン
イペンデント・レーベル、チェリー・レッドは、ポップ・ロック・
シーンの表面的な華かさとは無縁の魅力的な作品を多く発表してき
ているが、中でも彼らは既にその中心的存在に位置している。彼ら
の音楽活動範囲は、ここでの3枚のLPや数枚のEPの他、仏・T
A G O M A G Oのカセット(22号レビュー参照)、チェリー・レ
ッドのオムニバス「Perspective」(19号レビュー参照)、グラスの
オムニバス「The Wonderful Life」(20号の記事参照)、インテグ
レイテッド・サーキットのオムニバス「Flow Motion」などでも聴
かれるように、シンプルで地味な構成力にもかかわらず、その音楽
振幅にはなかなか個性的なものが散りばめられている。今回のサー
ドLPは、その中でもどちらかと言えば正攻法で作られた部類に存
するものと言える。素朴な感情や風景をオルガン、パーカッション、
ギター、ヴォーカルを使って表現するモノクロームな映像世界は、
とりわけ地味なプライベート・フォーク・ミュージックといえるで
あろう。また彼らか自分達の納得のいくやり方て回りの眼を意識せ
ずに音を作りあげていることが、そのプライベートな音楽を一層ひ
き立ててもいる。あえて比べれば、前作につけられた5曲入りの12
インチの世界に近い音作りだ。「雨の夢想」と題されたスタティック
な表情を見せるフリー・ミュージック的なインスト曲を除いて、他
は全てボーカルの耽美性を持つナンバー。

(石川真一)